

「情報科学入門: Ruby を使って学ぶ」正誤表 (第 2 刷)

p.28, l.6

(誤) image の幅と高さが **h, w** だったとき

(正) image の幅と高さが **w, h** だったとき

p.40, l.3

(誤) 文字列の長さを調べる文字列を

(正) 文字列の長さを調べる **には**文字列を

p.51, l.1

(誤) 関数の組み合わせによって

(正) 関数の組み合わせ**せ**によって

p.85, l.10

(誤) より大きな k について時間を

(正) より大きな k **に**ついて時間を

p.89, l.6

(誤) ϕ^k の係数 $\frac{3\phi}{\sqrt{5}}$ や定数項 -3 を消し、数え上げアルゴリズムであれば係数 **5** や

(正) ϕ^k の係数 $\frac{4\phi}{\sqrt{5}}$ や定数項 -3 を消し、数え上げアルゴリズムであれば係数 **3** や

p.124, ll.3-4

(誤)

$$\begin{array}{r}
 110011001100 \dots 110011010 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-4} \\
 \times) \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad 11 \quad (2) \times 2_{(10)}^1 \\
 \hline
 110011001100 \dots 110011010 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-3} \\
 +) 110011001100 \dots 110011010 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-3} \\
 \hline
 10011001100110 \dots 011001110 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-3} \quad (*) \\
 = 1.\underbrace{0011001100110 \dots 0110100}_{52 \text{ 桁}} \leftarrow (2) \times 2_{(10)}^{-2}
 \end{array}$$

(正) (3,4 行目に小数点を追加)

$$\begin{array}{r}
 1.10011001100\dots 110011010 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-4} \\
 \times) \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad 11 \quad (2) \times 2_{(10)}^1 \\
 \hline
 110011001100\dots 110011010 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-3} \\
 +) 1.10011001100\dots 110011010 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-3} \\
 \hline
 10011001100110\dots 011001110 \quad (2) \times 2_{(10)}^{-3} \quad (*) \\
 = \underbrace{1.0011001100110\dots 0110100}_{52 \text{桁}} \leftarrow (2) \times 2_{(10)}^{-2}
 \end{array}$$

p.125, l.11

(誤) 場合の有効数と表現できる

(正) 場合の有効桁数と表現できる

p.135, ll.14-15

(誤) 引く際に、大きな数どうしの引き算によって情報落ち誤差が生じてしまう

(正) 引く際に誤差が生じてしまう

以上 (2013-12-23)